

背景・特色

血管は毛細血管まで含めると全長で10万キロメートルにも達する巨大な臓器です。血管は老化、生活習慣病などで機能低下、狭窄、閉塞などを生じ、関連する臓器(特に脳、心臓、腎臓)に多大な影響を及ぼします。我が国での死因別死亡数でも心疾患、脳血管疾患は第2、4位と多く、また腎不全による死亡も7位となっています。近年増加している脳動脈瘤、大動脈瘤は多くの患者さんが無症状ですが、いったん破裂すると致命的になります。頸動脈狭窄症は脳梗塞の原因となります。閉塞性動脈硬化症は下肢動脈の高度狭窄や閉塞が原因の病気で足の冷感、歩行時の痛みの原因となります。またこれら血管病の患者さんは他の血管疾患を多く合わせてもっています。

種々の血管疾患に対し、近年はカテーテルによる血管内治療が進歩し、従来大きく皮膚を切るような手

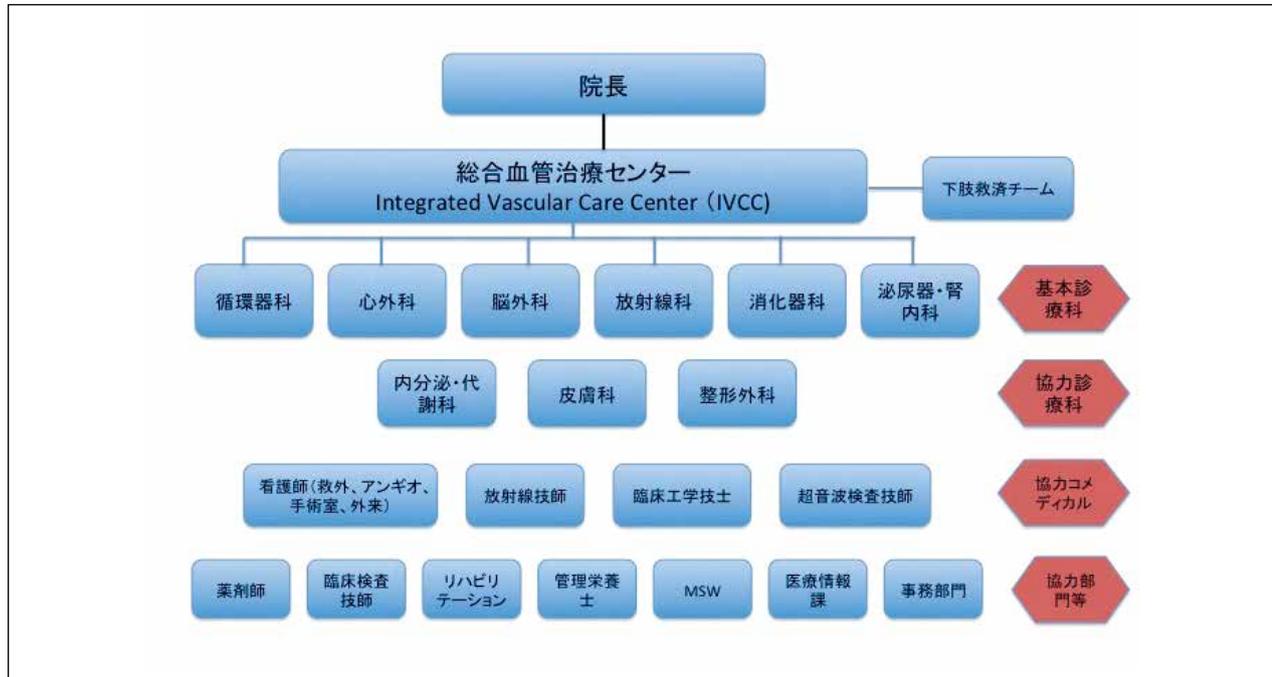
術から患者さんに優しい手術が発達してきました。脳動脈瘤に対するコイル塞栓術、大動脈瘤におけるステントグラフト留置術、頸動脈および末梢血管へのステント留置術などが開発されてきました。当院では平成30年4月より「総合血管治療センター・Integrated Vascular Care Center (IVCC)」を設立し、あらゆる血管疾患に柔軟に対応できる体制となりました。令和2年4月からは本館北タワーが稼働開始し、それまで2台であった血管内治療装置が4台に増設され、さらに機能がアップしています。このセンターは下図のように多彩で多くのスタッフが関与する組織であり、増加する心血管、脳血管、腎血管等の患者さんに対し、迅速かつ最新の治療を提供いたします。

対象疾患・病態

- **大動脈瘤**: 胸や腹部の血管が正常の2倍以上に拡大した状態。ステントグラフト治療が可能な場合がある。CTやエコーで動脈瘤があると言われたことがあるか、家族に動脈瘤や解離性動脈瘤となった人がいる、場合は是非受診を。
- **脳動脈瘤**: 脳動脈にできた動脈瘤で、破裂すると激しい頭痛とともに重症であると死にいたるくも膜下出血となる。大きさ(5mm以上)や形、部位などを総合的に判断し治療の適応を決定する。
- **頸動脈狭窄症**: 頸部頸動脈が狭窄
脳梗塞の原因となったもの、または脳梗塞をきたす可能性が高いものが対象でステント留置にて治療を行う。
- **閉塞性動脈硬化症**: 足の血管の狭窄か閉塞が原因
足が冷たい、歩くと痛い、足に治りにくい傷があるなどが対象。放っておくと足の切断に至る場合がある。ステント治療が主体。

その他、血管に関する症状やご相談に随時応じます。原則として近くのお医者さんにまず診てもらってから、当院へ紹介していただくほうがスムーズに進みます。直接来られる方は総合血管治療センターまでお問い合わせください。

センター組織図



- 血液内 ①
- 腫瘍内 ②
- 腎臓内 ③
- 内分泌 ④
- 消化内 ⑤
- 循環器 ⑥
- 脳神内 ⑦
- 呼吸内 ⑧
- 感染症 ⑨
- 精神 ⑩
- 小児 ⑪
- 小児外 ⑫
- 消化外 ⑬
- 胸乳外 ⑭
- 脳神外 ⑮
- 心臓外 ⑯
- 整形外 ⑰
- リハ ⑱
- 皮膚 ⑲
- 形成外 ⑳
- 泌尿器 ㉑
- 腎外 ㉒
- 産婦人 ㉓
- 眼科 ㉔
- 耳鼻 ㉕
- 化学療 ㉖
- 放診断 ㉗
- 放治療 ㉘
- 放核医 ㉙
- 麻酔 ㉚
- 歯科 ㉛
- 救急 ㉜
- 心不全 ㉝
- がんゲ ㉞
- 健診 ㉟
- 病理 ㊱
- 薬剤 ㊲
- 検査 ㊳
- 超音波 ㊴
- 臨床工 ㊵
- 看護 ㊶
- 血管治療 ●
- 消化器 ㊷
- 呼吸器 ㊸
- 生殖医療 ㊹
- 腎臓病 ㊺
- ロボット ㊻
- 女性外来 ㊼
- 緩和 ㊽
- 下肢 ㊾
- 呼吸ケア ㊿
- NST ㉀
- 認知症 ㉁
- 褥瘡 ㉂
- RRT ㉃
- 転倒予防 ㉄
- 内科専 ㉅
- 外科専 ㉆